

京都 マザーハウス 夫婦の住まい紫野 (モデルハウス)

竣工年	H30年3月
想定家族構成	夫婦お二人
構造	土台,通柱,管柱 無垢檜
断熱材	壁,天井:ウレタン / 床:フェノールフォーム
屋根	ガルバリウム鋼板
仕上材	壁:ホタテ貝塗、檜板貼、天井:ホタテ貝塗、杉板貼
	床:杉板(水回りを除く)
C値	1.01cm ² /m ² K



一級建築士事務所 株式会社**石田工務店**

〒603-8228 京都市北区紫野東舟岡町55-1
TEL 075-451-5051 FAX 075-451-8040

0120-296-481

<https://isida.jp>

建築業者許可 京都府知事許可(般29)第5139号 一級建築士事務所 京都府知事登録(25A)第01948号
宅地建物取引業者免許 京都府知事(4)第11354号 住宅性能保証制度登録店 登録番号21004824

京都 Mother House 夫婦の住まい 紫野 ある夫婦の物語



人生の岐路に立ち、かねてから楽しみだった、夫婦ふたりだけの生活を始めたいという方の住まいをつくりました。これからはモノを少なくして、自然を感じられる暮らしをしたい。お気に入りのものだけに囲まれて、好きなことだけに時間を使いたい。

この家にはきれいとか豪華とは異なる、無駄を省いた、すがすがしい空間が広がっています。

私たちが求める豊かな暮らしをこの住まいに込めました。

ふたりが末永く幸せでありますように…と。



私が生まれ育った場所につくった理想の家。
新築だけでなく、リノベーションの参考に、
ぜひご覧ください。

食を中心、夫婦の幸せをかたちにしました。

「子どもが巣立ったあと、新たにはじまるこれから的人生を夫婦二人で楽しく暮らす家」が、このモデルハウスのコンセプト。

子ども部屋はなく、南側の大きな窓と二つの天窓からの光で明るいダイニングキッチンをつくりました。

おいしい食事は、健康なからだをつくるだけでなく、二人の間に自然と会話を生み、幸せな関係性を育みます。

カウンターには、帰省してきた子どもたちだけでなく、仲のよい友人たちも招いて、歓談のひとときを。趣味や旅行の話に花が咲くのではないかでしょうか。



京都 マザーハウス 夫婦の住まい紫野 とある夫婦の物語

以前は京都市北区上賀茂で暮らしていました。子供が巣立ったので、住んでいた家が私たちには広すぎるようになりました。

前の家で一番気に入らなかったのは、キッチンが暗いことでした。明るいキッチンで料理がしたいし、ご飯が食べたいとずっと思っていました。

この家は2階にキッチンがあります。南の大きな窓と二つの天窓からの光がキッチンを明るく照らしています。キッチンからは船岡山の縁が間近に見えます。気に入ったCDやレコードを聴きながら料理をつくり、食事を楽しんでいます。ダイニングキッチンにいると心がくつろぎます。そして時間がゆっくりと流れていきます。

とにかく家事がしやすい家に住みたかったんです。新居はLDKの横にトイレ、洗面、洗濯室、浴室があり、水回りが1ヶ所に集中しているので家事がとってもやりやすくなりました。生活にゆとりが生まれたような気がします。

～奥様より～

私は料理を作ることは嫌いではない。

どちらかと言えば好きな方。でも美味しいものを食べることの方がもっと好き。

そのために美味しいものが作れるようなキッチンがほしかった。食べることは日々の暮らしに潤いを与えてくれる。

この家になってから夫も食事づくりをおっくうがらす手伝ってくれる。

元々嫌いではないことは分かっていたが。

「腕を上げたじゃない。」と言うと、夫は少し照れている。

食の話題で会話が弾むようになった。

キッチンをつくるのに、私はいろんなショールームを見に行った。各社いろんなことを考えてシステムキッチンをつくっていた。けれど私にはしっくりこなかった。

それなら、使いやすさを考えたフルオーダーキッチンをつくろうと考えた。一つ一つを考え、つくり込んでいくことでこのキッチンが出来上がった。

食べることって生きていくことの根本だとつくづく思う。

これからは美味しいものを食べてお互い健康であり続けたい。ねえ、あなた。



フルオーダーキッチン



手づくりのダイニングカウンター



～ご主人より～

私の最後の家は、京都の風情が感じられる住まいにしたかった。

その為に入ってすぐの部屋の建具に障子を選んだ。

障子を通して入る南からの日の光、夜に障子を通して漏れる照明の光があたりをやわらかに包み込んでくれる。

休日は書斎でゆっくりと読書を楽しみながら外で成長していく野菜を眺める。

夜になれば外縁から月を見上げお酒をちびりちびり。夜風にゆられながらの静かな時を味わう。

料理に使う食材の足しに2人が育てた南庭の野菜を使う。食材を摘み取り、外の流しで洗って2階のキッチンへ。採りたての野菜はとにかくおいしい。

この家に住んでからゆっくり時間が流れていく。これから的人生、この家で妻と末永く楽しく暮らしていきたい。

マザーハウスの五感を大切にした住まい



玄関ホール



家庭菜園



1F外縁



1F内縁



1F洗面



1F書斎



1F主寝室

〈視覚について〉

目から多くの情報が入ってきます。

色、素材感、形のバランスや大きさなどなど。

住宅は日常的に暮らす空間であることから色や形は奇抜でありすぎてはいけません。

住宅には落ち着きが大切です。

素材においては、人工のものよりも天然素材に人はぬくもりを感じ、心がやすらぐようです。



〈触覚について〉

手ざわり、肌ざわり、足ざわりの良し悪し。

人がふれる素材には適度なざらつきがあるのがいいようです。そのざらつきが心をなごませ落ち着きを与えます。



〈臭覚について〉

自然素材から発生する“におい”人は心地よさを感じることが多いようです。

その代表が木材の“におい”ではないでしょうか。杉・檜・松…木の“におい”をかぐと心が落ち着きます。他にも食材を調理する時のいい“におい”。風が運んでくる、季節の“におい”。ふとした“におい”に昔を思い出したり。

“におい”は人生に潤いを与えます。



〈味覚について〉

おいしいものを食べると人は笑顔になります。その笑顔は心の底から生まれる正直な満足感の表れです。住まいに一番大切な場所はおいしいものがつくられるキッチンとおいしいものが食べられる食卓なのかもしれません。



〈聴覚について〉

住宅には少しの音が必要だと思います。人は静かすぎると案外落ち着けないものなのです。家族の気配を感じる音、家事をする音、かすかな雨音、お寺の鐘の音などなど、住まいで聴く心地よい音を大切にしたいものです。



このモデルハウスの建設は、私にとって自然なことでした。
京都 マザーハウス 社長 石田泰久

モデルハウスを建てたのは、もともと私が生まれ育った場所でした。

小学校4・5年生まで、ここに建っていた家で暮らし、その後は今の社屋のある場所に引越しました。

建物の老朽化もあって、その建物を取り壊すことになり、跡地の利用を考えていた時に思い浮かんだのが、「食を中心とした、夫婦二人のための理想の家づくり」です。



幼い頃の社長。
後に写っているのが
モデルハウスの場所に
建っていた生家



キッチンの壁面はすべてマグネットが吸着できる板を貼ってあるので、お好きなものをお好きな場所に掛けることができます。
シンクは立体の間仕切りをつけたマザーハウスオリジナルのもの。
洗い物と調理の場所が自在に広がります。



元々、私は料理が趣味で、休日などは率先してキッチンに立っていました。
料理が家族の会話を生み、お客様をもてなすことで、交友関係が広がり、深まっていくのを実感しています。おいしい料理を食べている時は、誰もが笑顔。自分のルーツがある場所で、自分が本当に良いと考える家を提案することは、私にとって自然なことでした。

マザーハウスが自信をもっておすすめするモデルハウス「夫婦の住まい紫野」
是非、ご覧ください。



キッチンはとことん使いやすく。
調理の流れに添って、必要なものが必要な場所に配置されています。

